

# 公益財団法人日米医学医療交流財団 アメリカ短期看護研修助成

## 研修報告書 (2017年度 助成者)

作成日 2017年 11月 日

氏名 (フリガナ)	徳泉沙耶 (トクイズミサヤカ)
研 修 地	アメリカ・オレゴン州ポートランド市
研 修 期 間	2017年10月8日 (日) ~ 10月14日 (土)
所 属 機 関 名 身 分	

今回、アメリカ看護短期研修に参加するまで、日本との看護の違いがどうあるのか漠然としていて、あまりイメージが思い付きませんでした。多くの病院や施設へ行き、見学と説明を受けて看護師のステイタスや向上心の高さに驚きました。また、学生教育の内容の充実さに驚きました。

ポートランド大学の患者ロボットシュミレーションセンターはとくに現場によく類似して作られていて、学生自身が考えどう行動すべきかをよく学べる場所であると思いました。日本の看護学校にもいくつかの実習用模型はありますが、実際に目の前で症状や数値の変化を読み取り、行動することができるようなものはないので、とても素晴らしいと思いました。また、説明のなかで学生が卒業するころまでには実際の現場で動ける形になっているような教育体制であることに、日本との違いを強く感じました。

日本でも学内での実習、病院や施設での実習はあります。実習で受け持ちをさせて頂いた患者さんのアセスメント、自分が動くべき行動について学びますが、実際は資格を取って新人になってからの現場教育が重点となっていると思われます。それとは違い、アメリカでは学生の時点から知識のみならずアセスメント能力をつけることで、現場での対処能力につながっているのだと思いました。

産科、小児科領域で部分的に見学できたことと、説明で驚いたことではアメリカでは液体ミルクが各種整っていること、また母乳バンクの的確な利用がされていることです。液体ミルクは日本ではまだ承認されていませんが、2016年の熊本地震で海外からの支援物資で取り上げられました。NICUでその子に必要なカロリーの液体ミルクを利用していること、また厳正な検査を行った母乳バンクの利用があることを知りました。日本では母乳バンクはほとんど普及していませんが、多く普及すれば授乳や母乳で悩む母親の解決につながるのだらうと考えさせられました。

